

は
じ
め
に

「村の子どもたちを賢く、賢くしてやらねば、子どもたちの幸せも大人たちの幸せもなりたちはしない」

これは、兵庫県の国語教育実践家、東井義雄先生の考えです。

東井義雄先生は、まさに全身全霊という言葉がぴったりと当てはまるように、どんなときも、常に「村の子どもたちのために」と「教育」に没頭されました。その東井先生が大切にされた教育実践の一つに「ノート指導」があります。

もちろん、東井先生のご指導の域には遙か及ばず、比べることすらできませんが、私自身も、日々、教育実践において力を入れて取り組んでいるのが「ノート指導」です。

では、なぜ、ノート指導に力を入れて指導をするのでしょうか。

①主体的に学ぶ姿勢が鍛えられる

▶子どもたち自身の手で進める授業へと転換できる

②クラス全員の力につけることができる

▶それぞれの自力を鍛えることができる

③個々に応じた指導ができる

▶その子が発揮できる全力がノートに色濃く反映される

④クラス内で学び合いができる

▶ノートをもとに、話し合ったり、相談したりすることができる



一つの教育的ツールだけでここまで大きな教育効果を得ることのできるものが他に存在するであろうか、とうくらいに可能性を秘めたものが「ノート」です。また、そうした可能性を秘めながら、さらにありがたいことに、教師にとっても、子どもたちにとっても、大きな準備がいりません。子どもたちに「1冊のノート」を用意させるだけいいのです。

そして、本書でご紹介させていただいた簡単で取り組みやすいノート指導のスキルを実践していただくだけで、子どもたちが大きく成長することができます。同時に、教師に必要とされる授業準備の時間も大幅に削減することができるでしょう。

子どもたちに学ぶ力をつけ、教師の業務を大幅に削減できる教育実践、それが「ノートを使った指導」なのです。

2018年3月

丸岡慎弥

CONTENTS

はじめに	3
------	---



教師の指導もラクになる! 授業を制するノート指導

1	ノート指導の「リード」・「サポート」・「バックアップ」	10
2	子どもが自主的・主体的に学ぶノート指導とは	12
3	ノートでこそ自由自在に学習できる	14
4	スキルは積み上げられ、「深い学び」を引き出す	16
5	ノート指導が教師の負担を劇的に軽減する	18
6	保護者の心をつかむノート指導	20
1	私を大きく変えた「リード」・「サポート」・「バックアップ」という考え方	22



子どもの自主学習力を引き出す! ノート指導の基礎・基本

1	授業の始まりは新しいページから	24
2	まずは日付とページ	26
3	単元の第1時は見開きページで	28
4	箇条書きの教え方	30
5	1マスに1文字	32
6	線は必ずミニ定規	34

7	囲みテクニック	36
8	1行空き・1マス空き	38
9	最初は教師が何度もチェックする	40

EPISODE 2	慣れで身につく「箇条書き」	42
-----------	---------------	----

Chapter
3
ノートでの学習力をアップさせる!
教科別ノート指導のポイント

1	国語科① 向きは横長	44
2	国語科② 大切な学習用語は赤鉛筆	46
3	国語科③ 意見を書くときのフォーマット	48
4	国語科④ ノートの隅を使った○×術	50
5	社会科① 気が付いたことをとことん書かせる	52
6	社会科② 取材メモ術	54
7	算数科① 「問題」「答え」「説明」を書かせる	56
8	算数科② 学びが深まる余白の使い方	58
9	理科① 発見の記録法	60
10	理科② 実験・観察を図表化させる	62
11	特別の教科 道徳科① 考えが深まるノート術	64
12	特別の教科 道徳科② 学習の記録化	66
13	特別の教科 道徳科③ ミニ道徳ノートを使う	68
EPISODE 3	身をもって体感したプリント学習の弊害	70



夢中を仕掛ける!
ノート指導の「思考ツール」

1	T字チャート図	72
2	ノート4分割	74
3	ノート3分割	76
4	表活用	78
5	マンダラート図	80
6	ベン図	82
EPISODE 4	子どものノートが保護者を安心させる	84



学びの意欲をグッと高める!
「学習のまとめ」の書かせ方

1	感想を書く	86
2	「学んだこと」を書く	88
3	最終的な自分の意見を書く	90
4	省みる	92
5	問題づくり	94
EPISODE 5	丁寧なノートが生み出したある子のドラマ	96



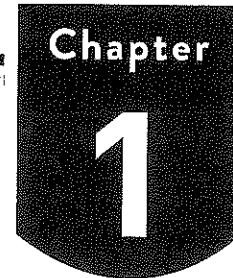
クラスみんなでスキルアップ! もっと子どもを夢中にさせるノート指導

1 良い見本をどんどん紹介	98
2 学級通信で紹介	100
3 教室掲示で紹介	102
4 班をうまく活用	104
5 付箋を貼ってほめほめ作戦	106
6 ギャラリーウォーク	108
7 やる気を引き出す教師の評価	110
8 レベルアップさせる励ましメッセージ	112
6 子どものノートから授業づくりを学ぶ先生	114



大変身! 自主学習力が どんどん上がる魔法の言葉

1 「鉛筆の先から煙が出るスピードで書きなさい」	116
2 「○○くん(さん)の鉛筆、元気やなあ!」	118
3 「○○さん(くん)の1行空き、芸術的~!」	120
4 「ノートもらっていい? 先生の宝物にしたいです!」	122



Chapter 1

1

教師の指導もラクになる!

授業を制する ノート指導

子どもたちの書く「ノート」には、

大きな可能性が秘められています。

本章では、ノート指導にはどんな効果があるのか、

ノート指導の根っことなる考えは何かを紹介していきます。

5

1マスに1文字

1マスに1文字は、当たり前のように書いて意外と見落とされがちです。マス目をきちんと使うことで、頭の中が整理されていきます。

なぜ、1マスに1文字なのか

1マスに1文字書かせることは、良いノートをつくるために欠かせないスキルですが、なぜ、1マスに1文字書かせることが大切なのでしょうか。それは、子どもたちがマスをきちんと意識するようになるからです。

煩雑になってしまっている子のノートを見ると、必ずと言っていいほどマスを意識していません。文字がマスからはみ出てしまっているだけではなく、行すらまっすぐに整っていません。その結果、ノートはぐちゃぐちゃになり、頭の中もぐちゃぐちゃのままです。

これでは学力アップは望めません。マス目をきちんと使ったノートだからこそ、学んだことがスッキリ整理され、理解が深まっていくのです。

1マス1文字がなかなか身につかないとき

1マスに1文字書くスキルを子どもたちが身につけるのには、少々時間がかかります。そのため、4月の「リード」期に徹底した確認が大切です。

高学年までマスを無視して書くことが習慣化てしまっているような子は、なかなか改善しません。また、なかには、「マスを使わずに小さな文字で書くことがかっこいい」などという間違った価値観をもっている子もいます。

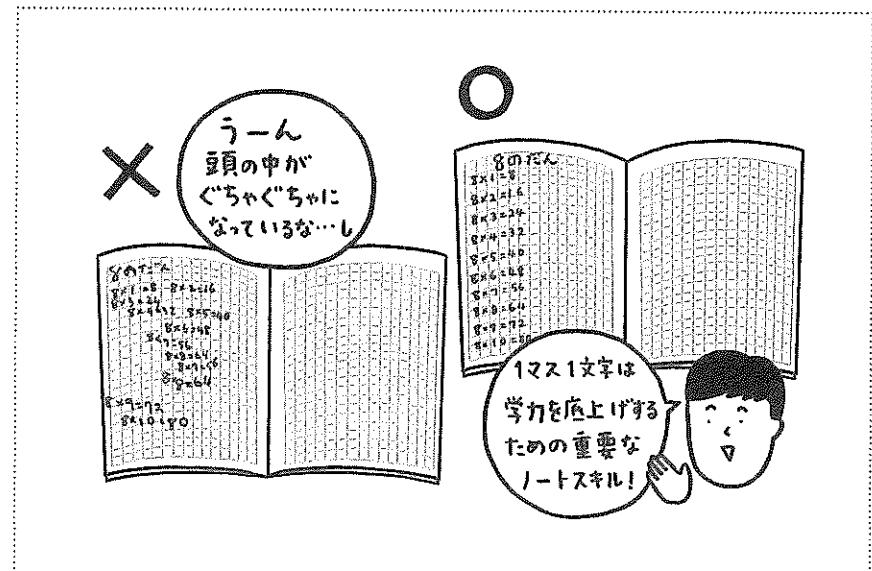
それでも、根気よく、「なぜ、マスを使って書くのか？」を語りながら指導を重ねると、徐々に改善されていきます。



1マス1文字で学力アップ

「1マスに1文字書かせる」だけですが、これが確実に学力アップにつながります。特に算数科では大きな力を発揮します。筆算の位取りが確実になるからです。計算が苦手な子によく見られるのは、補助計算である筆算を、マスを無視して小さく書くことです。補助計算を間違えれば答えを間違えます。子どもはこのことに気付いていません。位取りが必要な学習(1万などの大きな数)でも、マスは大きな効力を発揮します。

マスが正しく使えるかどうかは、習熟の大きな分かれ道となります。



+One Point!

- 国語科でもマス目の入ったノート(5ミリ方眼)を日頃から活用させましょう。
- すると、原稿用紙の指導も合わせて行うことができます。マス目の入ったノートが作文指導の手助けにもなるのです。

1



T字チャート図

さまざまな教科で、「二つを比べる」という学習活動に取り組むことがあります、そんなとき、効果絶大なのが「T字チャート図」です。

2本の線で思考フル回転

T字チャート図は、タテ線とヨコ線を入れるだけで完成させられる思考ツールで、○×やA Bなど、何か二つのものを比較するときに非常に役立ちます。ノートに2本の線をシンプルに引くだけですが、子どもたちはそれによって思考をフル回転することができます。

また、行事指導や学級活動、教科指導など、あらゆる場面でも活用可能なすぐれた思考ツールです。

対比で思考を鍛える

左右の欄には、どのようなことを書いていってもかまいません。また、左右の意見が対比している必要はなく、気が付いたことをどんどん書き出していくことから始めていきましょう。

だんだんと子どもたちが書くことに慣れてきたら、左右の意見を対比させて書かせ、レベルアップしていきます。特に、「雄花と雌花」「金閣寺と銀閣寺」のように課題が対比しているときには、意見も対比して書いていくことが可能です。対比を考えさせることで、思考力はどんどん鍛えられます。

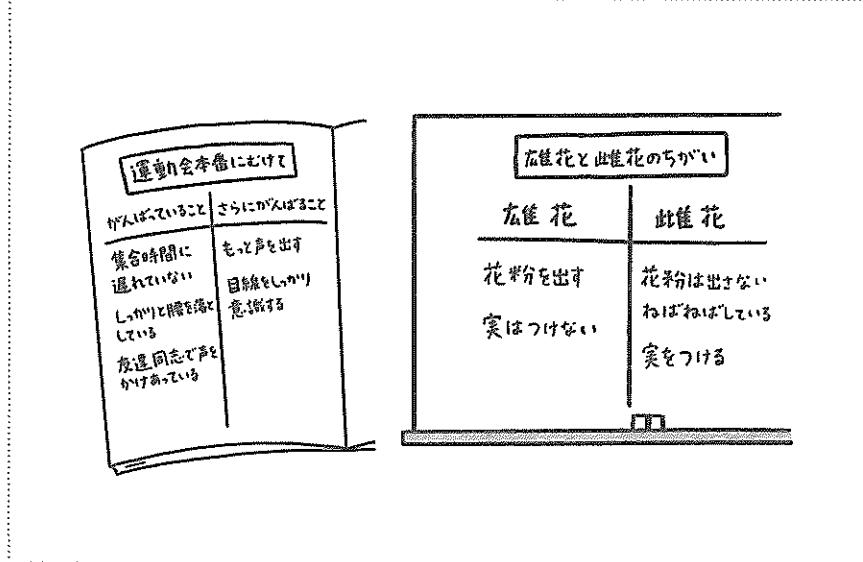
二つを比べた後には

二つのことを比べるため、たくさんの意見をノートに書かせた後は、どうすればいいのでしょうか。次につながる学習活動として、「東ね」という方法が挙げられます。

例えば、「金閣寺と銀閣寺」というテーマで比べた後には、「金閣寺の時代は幕府の力が強かったが、銀閣寺の時代は幕府の力が弱まり時代が衰退していった」などのようにまとめの学習に入るといいでしょう。

また、「雄花は花粉を出すが、雌花は花粉を出さないことから、それぞれの役目は何だろう?」というように、子どもたちの気付きをもとに次の発問へつなげることも可能です。

子どもたちは、T字チャート図で気付いたことをもとに、一般的な概念の気付けへとたどり着くことができるのです。



- +One Point!**
- T字チャート図は、学級会でも用いることができます。黒板に書きながら、子どもが自分たちのクラスについて振り返りをするのです。ノートだけではなく黒板に書いて使うことができる優れものです。